

静岡市立賤機中小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年6月4日(火)

出前授業レポート

「昔の人々の暮らしを体験して、石器が思ったよりもよく切れてびっくりしたことや、土器の違いから生活の環境の違いが分かるなど、昔の人々の暮らしをよく考えるきっかけとなりました。」

静岡市立賤機中小学校の6年生8人が、石器の試し切りや火起こしなどの体験を通して、昔の人の暮らしの様子を考える目的で、土器の分類・石器の試し切り・火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験

子どもたちは、縄文土器・弥生土器・須恵器の土器片と完形土器を比べながら、違いや似ているところを探して悩みながら分けていました。その後、解説を聞き、違う理由に納得していました。

「厚さや色が違ったけれど、難しかったです。」

「土器の音がそれぞれ違うことに驚きました。」

石器の試し切り体験

発掘された打製石器や磨製石器を見ながら、違いを考えたり、旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしを想像しました。次に、黒曜石で新聞紙や野菜を切り、切れ味の鋭さに驚いていました。

「キュウリの皮もむけて、ピーラーのようでした。」

「包丁のようにスムーズに切れてビックリした！」

火起こし体験

もみぎり法や弓ぎり法等の火起こしの歴史を聞いた後、舞hiri法で初めての火起こしにチャレンジしました。初めは、弾み車をうまく回せない子どもたちでしたが、慣れてくると調子よく弾み車を回し、火種を作ることに成功しました。フーフータイムも上手いきき、全員が火を起こすことが出来ました。

「楽しかったけど大変でした。火の大切さがよく分かりました。」

「火がついたときの達成感は忘れられません。」

先生方の感想

「昔の人々の暮らしを体験して、石器が思ったよりもよく切れてびっくりしたことや、土器の違いから生活の環境の違いが分かるなど、昔の人々の暮らしをよく考えるきっかけとなりました。たくさんの黒曜石から自分で切れ味の良いものを選ぶことが出来たり、土器も分類するために十分触ることができたりして、たっぷり体験できて良かったです。火起こしも全員が成功して満足していました。石器の違いや土器の違いの説明などとてもわかりやすかったです。火起こしでは、最後の子に火が起こるまで手伝ってくれました。」